

# D 恐竜 inosaurs

恐竜博物館ニュース

第5号

2002.3.25

福井県立恐竜博物館

## 案内：特別陳列「眠りからさめた福井の恐竜たち」展の開催

目次 博物館における学会・研究会等の開催について / 日本古生物学会2002年年会・総会の開催 / 博物館指導者研究協議会...2-3  
研究ノート / 富山県の恐竜化石...4 展示標本紹介(ミイラ状の恐竜化石、カプトガニのはい跡) / 博物館バックヤード...5  
教育普及活動 / 特別陳列展開催案内...6 博物館みどころMAP...7 行事案内 / ダイノメイト / 編集後記...8



# 学会・研究会等の開催について



福井県立恐竜博物館は、開館してからほぼ1年8ヶ月が過ぎようとしています。スタート早々は大変な忙しさに見舞われ、特別記念の恐竜EXPOふくい2000が開催された、ほぼ2ヶ月の間は、ほかのことにはほとんど手がつきませんでした。EXPO後の撤収・整備の約2ヶ月間もあっという間に過ぎ去ってしまいました。

正直なところ、反省とか再考とか言っている余裕はなかったようです。いま振り返ってみますと、博物館の滞在人数のキャパシティを超える人々が1ヶ所に集い、入館待ちの列をなしていたのですから、驚くべきことであるに違いありません。祖父母からお孫さんまでの3世代家族が乗りあわせてきて、1台の車からゾロゾロと出てきます。ライフスタイルの変化に伴って車の収容能力が一気に向上したことも、多くの来場者があった一因になっているものと思われます。

さて、恐竜博物館は言うまでもなく県立の組織であり、「恐竜」に特化した正真正銘の博物館と断言できます。とは言うものの、恐竜をどこまで突き詰めて考えられるかが、今後の課題となることでしょう。学校や大学、研究所と違い、「博物館」という生涯学習施設は、存外に「自制心」を要求されることになりそうです。「恐竜に特化する」と一口に申しましても、その内容には実に様々なレベルがあり、中々一筋縄では行きそうにありません。「恐竜に特化する」という表現をあえて使わなければ、広く「恐竜世界」を総合的に演出する、ということになるでしょう。

恐竜学についてよくよく考えてみますと、わが国ではようやく恐竜の英文記載論文が世に出始めたところです。長い間、我が国では恐竜化石は見つからないという考えが一般的でしたが、

恐竜化石が国内で最初に見つかったから未だ25年も経っていないのに、いまや産地の数としても1県の中にいくつも見出されるようになってきました。まさにコロンブスの卵です。このような急展開が研究の進展にもつながっているのでしょう。

そのような中で、博物館の外枠とはいえ、博物館の「根拠地」である勝山市において、2001年に、恐竜等の化石に関連した日本各地の自治体関係者が集まって「恐竜サミット」が開催されたのは特筆に値します。恐竜博物館としましても、世界的にも有名な、恐竜などの古生物の研究機関である、カナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館や中国科学院古脊椎動物古人類研究所との間に姉妹関係を確立することができました。勝山市は恐竜文化賞等の事業も行っており、恐竜博物館と地元勝山市は、いわば表裏一体となった関係があるとも言えそうです。

勝山市に限らず、恐竜博物館は大勢の方々によって支えられていることも忘れてはなりません。2期にわたる恐竜化石調査の集中発掘作業は、大勢の学生さんや大学院生さんに協力していただいております。ボランティアとしての活動が大きな成果をもたらしたものでした。さらにNPO法人福井恐竜博物館後援会も立ち上がり、恐竜博物館友の会やミュージアムショップの運営など、その活躍には目を見張るものがあります。

ところで、恐竜博物館は、恐竜という名称を冠してはいるものの、実質的には恐竜以外の分野に対しても「開かれた博物館」といっても差し支えはありません。もちろん、館で実施する見学会や研修会の内容については恐竜にからむことも多いのですが、広い視点や分野からの貢献があることも見逃せません。2002年2月に、財団法人日本博物館協会の自然史・理工・動水部門博物館指導者



## 日本古生物学会

### 2002年年会・総会の開催について

日本古生物学会は、「化石」を研究する学問分野である「古生物学」の進歩・普及をはかるために設立された学会で、日本における古生物学研究の中心的な役割を果たしています。日本古生物学会では年に2回、研究成果を発表する学術講演会を開催していますが、2002年年会・総会は平成14年6月21日(金)～23日(日)に福井県立恐竜博物館での開催が予定されています。古生物学のさまざまなトピックについての個人講演やポスター発表、シンポジウムなどが行われます。学会期間中の23日(日)に

は、中国科学院古脊椎動物古人類研究所の董枝明先生による特別講演(入場無料)を予定しています。

21日(金)に、シンポジウム「環日本海地域における白亜系層序と国際対比 一手取層群を中心として」(仮題)(国際地質対比計画(IGCP)434共催)の開催を計画しております。このシンポジウムは、恐竜化石を産する手取層群の層序や、環日本海地域の同時代の地層との比較、恐竜をはじめとするさまざまな産出化石やその年代論といったテーマについて、研究の現状と課題を議論し、今後の更なる進展を目指したものです。日本のみならず、韓国やロシア、中国の研究者に参加していただき、「世界の中の手取層群」について議論する機会にしたいと考えております。

古生物学会年会には学会会員以外の方も参加できますので、多数の御参加をお待ちしております(ただし、学会参加費が必要になります)。

(佐野晋一)





# 博物館指導者 研究協議会 **開 催**

(財)日本博物館協会主催による自然史・理工・動水部門の平成13年度博物館指導者研究協議会が、全国の自然系博物館25施設の学芸員等40人が参加して、2月21日・22日の両日にわたり恐竜博物館で開催されました。

初日は、はじめに、日本博物館協会の五十嵐耕一専務理事の挨拶があり、続いて当館の濱田隆士館長より、総合的な学習や学校週5日制の導入、国立博物館の独立行政法人化などといった流れの中で、転換期を迎えつつある自然史



博物館について、地域から何が期待され博物館がどう取り組んでいけばよいのか、その現状と課題について、当館を例にとりながら、今回の研究協議会の基調となる講演がありました。講演に引き続き、当館職員によるビデオを中心にした恐竜博物館の概要についての紹介、バックヤードや展示室の案内を行いました。

翌日は、富山市科学文化センターの布村昇館長から、「自然系博物館の運営」と題して地方都市にある自然科学系博物館の20年以上の経験や実践の中から、自然史博物館の課題と分析、館の取り組みについて、具体例に基づいた講演がありました。引き続き、「これからの地域博物館の課題や役割」をテーマとしたパネルディスカッションでは、布村昇館長、勝山恐竜研究会の滝川真澄氏、越前がにミュージアムの今攸館長から話題提供がありました。まず、滝川氏からは、恐竜博物館の地元である福井県勝山市における「恐竜」に着目したまちづくりへの市民の取り組みについて、次に、今館長からは、福井県を代表する観光と漁業の町「越前町」に立地したユニークな施設である「越前がにミュージアム」の設立の背景、運営の現状と課題について、それぞれ話題が提供されました。布村館長や濱土館長のそれぞれの講演についての補足を含め、参加者からの質問への回答を交えながら、活発な議論がなされました。(辻 政輝)



研究協議会が恐竜博物館で開催されたことは画期的なことだと思われま。この協議会は、「地域博物館」をキーワードに、富山市科学文化センターの布村昇館長、カニに特化した越前がにミュージアムの今攸館長、そして勝山恐竜研究会・「恐竜王国勝山」推進市民会議の滝川真澄理事と、私、恐竜博物館館長濱田隆士の4メンバーが話題提供を行いました。日程2日間という“強行軍”でしたが、約40名の参加者を数え、中には初参加者も多く、小さいながら盛り上がりま。まさに地域博物館の特性を發揮した講演とシンポジウムでした。

今後も多くプログラムの開催が予定されていますが、中でも、6月の日本古生物学会年会や、11月の“古植物”に関連した分野を対象にした植生史学会が目立った存在です。この1月には、鹿児島大学で日本古生物学会での例会が開催され、恐竜博物館からも2人が出席させていただきました。九州南端からの“熱い”情報が発信されたときま。総勢200名を超える参加者があったとかで、その盛り上がりの程がうかがわれま。恐竜博物館でも、これに負けないようにと、準備に取り組んでいるところ。恐竜博物館での古生物学会シンポジウムには、中国・韓国・ロシアの方々にも加わっていただけそう。す。

恐竜博物館は、前出の通り、未だ駆け出しの若輩です。当初はEXPOと重なったこともあって2年延ばしにはなりましたが、学会・研究会等の開催という面についても、ようやく歩み始められることは欣快の至りです。博物館での現有勢力も小さく実力不足を否めませんが、成功を目指して努力する所存です。とはいえ、職員のみで実現できるものではありません。皆様の暖かい御支援をお願いいたします。是非共、恐竜博物館へ足をお運びいただければ幸いです。

(福井県立恐竜博物館館長 濱田隆士)

## 特別講演

### 「中国の恐竜(仮題)」



**日時** 6月23日(日) 14:00 ~ 15:30

**講師** 董 枝明

(中国科学院古脊椎動物古人類研究所教授)

**場所** 恐竜博物館講堂

**対象** 一般 250名

日本古生物学会年会にあわせて特別講演会を開催いたします。入場無料で、どなたでもお聞きになれます。

# 研究ノート

中生代は恐竜の時代とよく言われますが、海ではアンモナイトやペレムナイトなどの頭足類（タコやイカの仲間）が繁栄した時代でもあります。頭足類の祖先は古生代カンブリア紀後期（約5億2千万年前）に出現し、進化の過程でオウムガイ類、アンモナイト類、鞘形類（タコ類、イカ類）に分化し、現在生きているのはオウムガイとタコやイカの仲間、多くは絶滅してしまいました。頭足類は化石種も含めて現在までに2万種余りが知られていますが、その大半は古生代に繁栄しました。その中でもアンモナイト類（約1万種）のアンモナイト目に属する頭足類は、中生代に大いに栄えました。

オウムガイ類もアンモナイト類も基本的に同じ殻の構造になっていますが、両者の違いは初期室の有無にあります。アンモナイト類の場合は、殻ができ始める時に直径1mm以下の球状の初期室と呼ばれるものができますが、オウムガイ類の場合には、球状の初期室ができません。



ユーバキディスカス ハラダイ

また、球状の初期室は鞘形類でも見られますが、鞘形類の場合、殻が軟体部の中に包まれていることから、アンモナイト類と区別されません。

ところで、アンモナイトは生活環境によって様々な形や装飾をした殻をもっていました。殻の表面が平滑なものから棘

が発達したもの、肋とよばれる表面の凹凸まで種類によって実に様々な形があります。その美しさは古くから私たち人間を魅了してきました。一方、アンモナイトは種の生存期間が短く、広範囲に分布し、化石としての産出頻度が高いという理由によって、時代を決定する重要な化石（示準化石）として学術的にも高い評価を受けてきました。特徴あるアンモナイトが地層の中から出てくると、それによって時代が決定できるのです。

日本にも中生代の海の地層が広範囲に分布していますので、アンモナイトが数多く産出し、福井県の手取層群からもジュラ紀後期～白亜紀前期のアンモナイトが見つかっています。特に、勝山市の北谷のように恐竜化石を中心にした陸上の地層にとって、アンモナイトが出てくる海の地層の存在は、時代を推定する意味において重要な役割を果たしているといえます。このことから、手取層群のアンモナイトが出てくる地層と恐竜が出てくる地層との関係を明らかにするための地質調査の重要性を考えながら、研究を進めていくことが今後の課題となっています。

（後藤道治）



アンモナイトの殻の内部

## 富山県の恐竜化石

平成2年に富山県大山町の亀谷で発見された獣脚類の足跡化石をきっかけに、大山町の山間部の約400m<sup>2</sup>の地層面から300を越す恐竜や鳥類の足跡化石が発見され、国内最大規模の恐竜足跡化石群として全国的に注目を集めました。



アンキロサウルス類足跡化石



富山県初の恐竜歯化石（獣脚類）

その地層は北陸地方に分布する中生代白亜紀前期（約1億2千万年前）の手取層群です。富山県では山間部に手取層群が広く分布しているにもかかわらず、長い間、恐竜の体化石（歯や骨格などの化石）は発見されていませんでした。ところが、平成11年に足跡化石露頭面から待望の獣脚類の歯化石が発見されました。この発見により骨格化石などの発見の期待が高まり、平成12、13年の2カ年で試掘調査が

おこなわれました。この調査では国内初となるアンキロサウルス類の足跡化石をはじめ約160点の鳥類や、連続歩行を示す23点の小型獣脚類と考えられる足跡化石が発見されました。平成14年度からは本格的な発掘調査がはじまる予定です。

堆積学的な調査から、足跡をつけた恐竜たちは大きな河川の周辺に広がる湿地帯に生息し、鳥類が水際でエサをついばみに来たと考えられています。足跡化石は恐竜の歩行様式、群行動、生息環境など恐竜のダイナミックな姿を考える上で、骨格化石以上に貴重なものです。



発掘現場

大山町で発見された足跡化石のレプリカは、富山市科学文化センター、大山町歴史民俗資料館、大山町農山村交流センターで見ることができます。

（大山町教育委員会 藤田将人）

大山町教育委員会

住所：富山県上新川郡大山町上滝523 TEL：076-483-2594



# 展示標本紹介

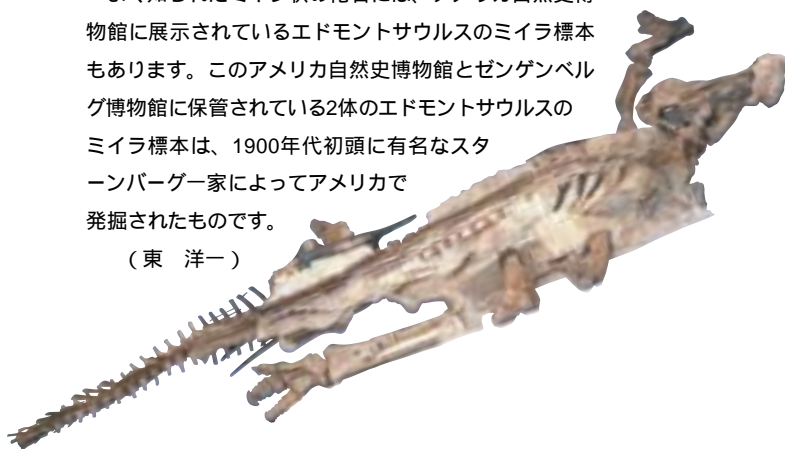
## ミイラ状の恐竜化石

(エドモントサウルス: *Edmontosaurus*)

ハドロサウルス科エドモントサウルスのミイラ状に保存された標本(複製)です。この原標本は、ドイツ・フランクフルト市にあるゼンゲンベルグ博物館に展示してあるものです。ミイラ状の恐竜化石は、恐竜の体のつくりを知るのに大変貴重な資料です。この標本には、背中部分に皮膚痕が残っています。この皮膚痕は皮膚そのものではなく、恐竜の死体に付着した砂岩に印象が記録されたものです。この皮膚痕から、エドモントサウルスの体表の模様を詳しく知ることができます。また、前肢の手の部分も皮膚で覆われており、第1指と第2・3・4指とが二股の手袋に包まれたようになっていることが解ります。このような前肢の手の形態は、ハドロサウルス類の足跡の形状とよく符合しています。

よく知られたミイラ状の化石には、アメリカ自然史博物館に展示されているエドモントサウルスのミイラ標本もあります。このアメリカ自然史博物館とゼンゲンベルグ博物館に保管されている2体のエドモントサウルスのミイラ標本は、1900年代初頭に有名なスタンパーガー家によってアメリカで発掘されたものです。

(東 洋一)



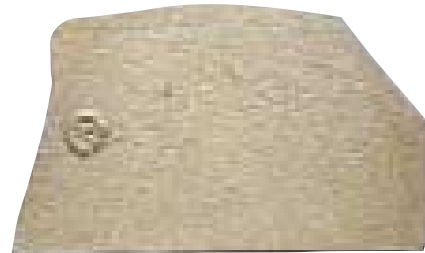
## カブトガニのはい跡

(Tracks of a horseshoe crab)

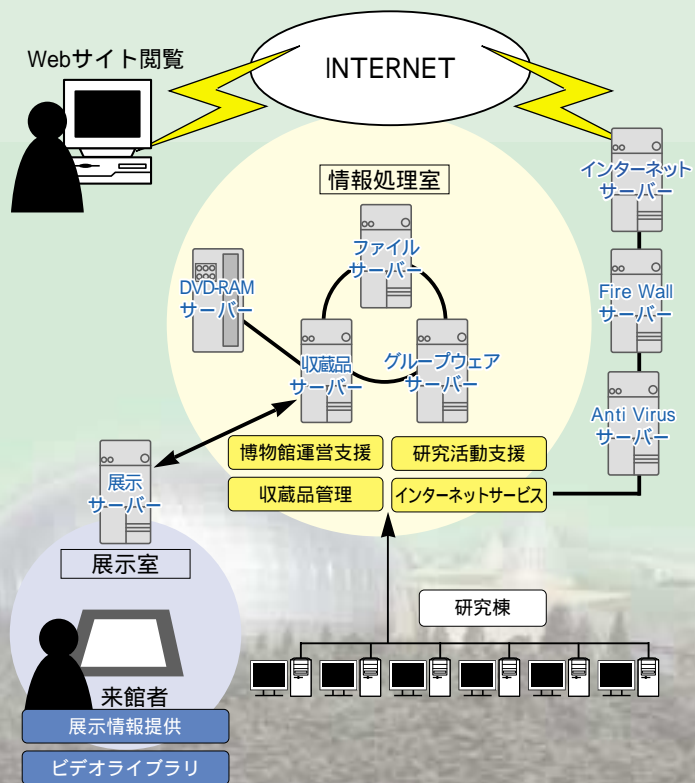
カブトガニは、古生代シルル紀に出現した節足動物で、カニという名前ですが、サソリやクモに近い仲間です。中生代ジュラ紀以降、からだの基本的なつくりがほとんど変わっていないので、生きている化石の代表的なものとされています。1階「地球の科学」ゾーンの生痕化石のコーナーに展示されているカブトガニ化石(*Mesolimulus walchi*: ジュラ紀)は、始祖鳥で有名なドイツのゾルンホーフェンから産しました。

カブトガニは胸に6対の脚を持っており、後ろの5対の脚(歩脚)で歩行します(一番前は主に食餌用で、鋏角といえます)。カブトガニの後ろに点々と足跡を見ることができますが、これははい跡の化石です。はい跡などの「生痕化石」は、古環境の推定などに重要で、その化石が生きていたようすを私たちに教えてくれます。館の地下「ダイノストリート」にもカブトガニのはい跡化石があり、8m以上に及びます。カブトガニのはい跡化石は、歩いていてそこで息絶えた「死に様」をドラマティックに伝えています。

(野田芳和)



## 博物館バックヤード ..... 情報処理室.....



博物館の仕事も積極的に情報処理技術を使うようになりました。恐竜博物館も同様で、開館準備中から情報システムを企画設計し、日々の研究活動等に役立てています。このシステムを担う実際の機械が置かれている部屋が情報処理室です。



情報処理室には、恐竜博物館総合情報システムとして6台のサーバー用コンピュータとそれぞれにモニター、キーボード、非常電源供給装置が備えられています。他に、26ギガバイトのDVD-RAMメディアを100枚収納し入れ替えて読み書きすることができるDVD-RAM記憶装置やインターネット接続のためのルータなどがあります。

これらの機械は、高速ネットワークで結ばれることによって互いに連携し、博物館に必要な4つの機能を提供しています。ひとつは博物館業務支援機能で、入館者数統計や団体予約、設備管理を主に行います。次に収藏品や図書・文献のためのデータベースを提供する収藏品管理機能。また研究活動支援機能として、地図情報と連携したデータベースのアクセスや専門的なソフトウェアなどで研究活動や論文・報告書の作成を支援します。また研究活動においての情報検索に加え、館外からの利用者にWebページによる情報提供をインターネットサービスとして行っています。

普段はその存在を意識することはありませんが、恐竜博物館の活動を陰で支えるまさに縁の下の力持ちといえます。

## 博物館セミナー 基礎コース 「地球生物の進化史」

博物館セミナー基礎コース「地球生物の進化史」は一般の方を対象に、恐竜をはじめとした古生物はもとより地学全般について興味や基礎的知識の習得を目的として月1~2回開講しています。

平成13年度は、「陸の古生物」「海の古生物」「実習講座」の3テーマに分けて計13回開講しました。その内容は、「陸の古生物」では中生代・新生代の植物、アジアの恐竜、「海の古生物」では無脊椎動物、アンモナイト、石灰岩、海の哺乳類のテーマで、また、「実習講座」は大型化石研究法、地質調査法、植物化石研究法、微化石研究法などについて、野外や室内での実習を行いました。

平成14年度も面白く興味深い講座を開講します。皆様ふるってご参加下さい。  
(笹木尚美)



海の古生物  
「アンモナイトの繁栄」  
(平成14年1月12日)



実習講座  
微化石研究法 (平成13年12月23日)

### 博物館セミナー基礎コース参加者の声

博物館セミナー基礎コースには県内外問わず、毎回多くの方が参加されています。ここでは、参加者の方のご感想を紹介します。

**「実習講座」の地質調査法での中生代の地質観察及び化石採集の体験をし、また、微化石研究法での顕微鏡による微化石観察において、肉眼では判別できない微化石が星のように輝き感動いたしました。今後のセミナーが待ち遠しいです。**

伊藤義徳さん(福井市)

**私が恐竜に興味を持って、はや16年経ちます。現代の自然とはまったく違った中生代の世界。博物館セミナーに参加するまでは、植物や哺乳類の研究もこんなに楽しいとは思いませんでした。特に「実習講座」の地質調査法で実際に現地で測量した時は、まるで自分が研究者になった気分で良い思い出になりました。他の講座も、片道3時間かけて来る甲斐がある面白い講座ばかりです。これからも、博物館セミナーに参加していきたいと思います。**

影山雅代さん(名古屋市)

### 特別陳列

## 「眠りからさめた福井の恐竜たちー恐竜化石調査成果と収蔵庫の化石ー」

期間:平成14年7月20日(祝)~9月1日(日)(休館日なし) 時間:9:00~18:00(入館17:30まで) 会場:福井県立恐竜博物館特別展示室

今年の夏休みに上記の特別陳列が当館の特別展示室で開催されます。この特別陳列の中身をすこし紹介しましょう。この特別陳列のテーマは大きく「恐竜化石調査成果」と「収蔵庫の化石」の2つに分かれます。「恐竜化石調査成果」では、福井県で今まで行ってきた恐竜化石調査の成果を展示します。平成7~11年に第二次恐竜化石調査、平成13年に試掘調査が行われ、数々の成果が新聞やテレビなどに報道されてきました。これらの化石は現在も研究が続けられています。どんな恐竜がどのように生きていたか、恐竜化石の発掘の様子から研究方法、恐竜を取り巻く環境の解明にむけ



た成果を紹介し、最新の考え方も織り込んで展示します。さらに恐竜化石以外にも、ワニ、カメ、魚、植物、貝、足跡などの化石をわかりやすく展示する予定です。「収蔵庫の化石」では、博物館の収蔵庫で出番を待っている多くの化石を展示します。恐竜をはじめとした脊椎動物、太古に栄えた三葉虫やアンモナイトなどの海にすむ無脊椎動物、植物や昆虫の化石など、世界各国から収集された標本を展示する予定です。どうぞ楽しみにしててください。  
(寺田和雄)





恐竜博物館のドーム内にある恐竜ホールは、「恐竜の世界」、「地球の科学」、「生命の歴史」の3ゾーンから構成されており、恐竜をはじめとした数多くの標本が展示されています。今回は、この常設展示室内の見どころのいくつかを、当館ジオラマの背景画の原作者である山本 匠 氏に描いていただいた鳥瞰図を用いて紹介します。



## 1. 「恐竜の世界」ゾーン

地下1階の「ダイノストリート」を通り、「ボーンベッド」を経て階段を上がっていくと、頭上に恐竜の骨格群が現れます。ここが恐竜ホールのメインの「恐竜の世界」ゾーンです。恐竜ホール中央部には、食べる・守る・防ぐなど恐竜の生態に迫る「恐竜のくらし・からだ」コーナーがあり、その周りにはティラノサウルスやエドモントサウルスをはじめとする35体の恐竜の全身骨格標本が巨大なホールを埋めつくしています。

これらの骨格は恐竜の進化と分類に準じて、ジオラマにむかって左側に「竜盤目」右側に「鳥盤目」の恐竜が展示され、恐竜の多様性や進化のありさまを空間全体で体感できるようになっています。これだけ

の数の恐竜の骨格が一堂に並ぶのは世界でも珍しく、壮観なものです。

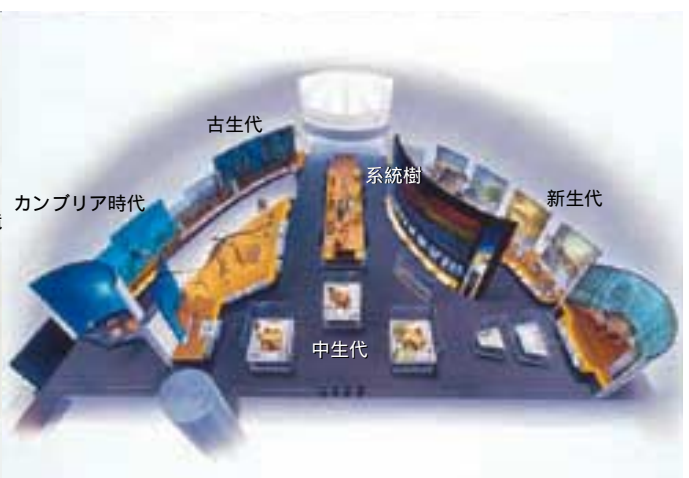
恐竜ホールの奥には、ジュラ紀の森を再現した「中国四川省の恐竜たち」のコーナーがあります。頭上高くそびえる原寸大の7体の動く恐竜や、復元された当時の植物など学術成果に裏付けされた臨場感あふれる巨大ジオラマは国内でも最大級のもので、失われた恐竜時代を体感することができます。

その他、リアルな恐竜のCG画像が200インチの2つの画面を越えて行き交う「ダイノシアター」や、福井県勝山市で発掘されたフクイラプトルやフクイリュウの全身骨格などを展示した「手取層群の恐竜」コーナーも見どころの一つです。



## 2. 「地球の科学」ゾーン

1階の「地球の科学」ゾーンでは、複雑なメカニズムで躍動を続ける地球について、堆積物と化石、岩石や鉱物、鼓動する地球の現象などを取り上げ、観察体験できる展示となっています。なかでも、45個の岩石標本が置かれた3つの回転式岩石テーブルにはそれぞれにCCDカメラが備え付けられ、拡大して観察できるといった参加体験型の展示となっており、来館者の人気を得ています。



## 3. 「生命の歴史」ゾーン

1階からスロープを通過して2階へ上がったところに、「生命の歴史」ゾーンがあります。生命が海に現れ地球の環境を変えていった歴史、陸上に進出した脊椎動物と植物との関わりの歴史などを、先カンブリア時代から新生代に至るまでの時間の流れに沿って紹介しています。豊富な化石はもちろんのこと、模型を用いた恐竜の系統樹や緻密なジオラマは興味を惹きつけてくれることでしょう。(小島敏弘)

# 行事案内 (2002年4月～2002年9月)

所定の方法にて、行事名・住所・氏名・電話番号・年齢を、博物館までご連絡ください。  
開催日の一か月前から受付開始で、定員に達し次第、締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の時は抽選となる場合があります。

## 特別講演会

中国の恐竜(仮題)  
日時/6月23日(日) 14:00～15:30  
講師/董 枝明  
(中国科学院古脊椎動物古人類研究所教授)  
場所/講堂 対象/一般 申し込み不要です。

## 博物館セミナー 基礎コース

場所/研修室 対象/一般  
申込: 電話、FAX、E-mailにて

イグアノドン類の恐竜  
日時/4月14日(日) 13:00～14:30  
内容/イグアノドン類の起源、進化、古地理的な分布の意義について説明します。  
担当者/小林快次  
恐竜時代の哺乳類とその子孫  
日時/6月30日(日) 13:00～14:30  
内容/中生代哺乳類の特徴と、その子孫についてスライドを使って紹介します。  
担当者/宮田和周  
アジアと日本の恐竜  
日時/7月28日(日) 13:00～14:30  
内容/アジアと日本の恐竜化石の発掘のようすや最新の学説について紹介します。  
担当者/東 洋一  
温泉でつくられたオパールと珪化木  
日時/8月11日(日) 13:00～14:30  
内容/珪化木ができる過程とオパールとの関係を紹介いたします。  
講師/赤羽久忠(富山市科学文化センター学芸課長)  
白山火山 噴火から340年  
日時/9月8日(日) 13:00～14:30  
内容/活火山である白山火山の生い立ちやこれからの白山について紹介します。  
講師/東野外志男(石川県白山自然保護センター次長)

実習講座 岩石研究法  
日時/5月26日(日) 10:00～15:00  
内容/岩石のプレパラートを作成し、顕微鏡を用いて観察を行います。  
担当者/佐野晋一  
場所/実習室  
対象/一般 20名

## ダイノメイト(後援会より)

ダイノメイト(恐竜博物館友の会)では、平成14年度の行事として夏休みを利用した次の2つの行事を企画しています。

- 1.勝山市北谷の恐竜化石発掘現場での  
発掘体験と特別陳列見学の集い  
日時 7月20日(土)～7月21日(日) 1泊2日  
参加費 大人:12,000円、小人:10,000円
  - 2.カナダ恐竜体験の旅  
日時 8月20日(火)～8月25日(日) 5泊6日  
参加費 約29万円
- いずれも、魅力あふれる楽しい行事ですので、ダイノメイト会員になって全国の仲間と交流の輪を広げてみませんか?

ダイノメイト会員申し込み先  
〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11  
特定非営利活動法人 福井恐竜博物館後援会  
TEL&FAX 0779-88-8730  
年会費 個人会員 2,000円、家族会員 3,500円

## こども自然教室

場所/実習室 対象/小4～中3 20名  
申込: 往復ハガキ、E-mailにて

微化石を観察しよう  
日時/4月28日(日) 13:00～15:00  
内容/有虫や放散虫の化石を、顕微鏡で観察します。  
担当者/野田芳和  
恐竜の骨格を調べよう  
日時/5月19日(日) 13:00～15:00  
内容/展示室の恐竜の骨格を使って、恐竜を探究します。  
担当者/小林快次  
恐竜時代の木を調べよう  
日時/6月2日(日) 13:00～15:00  
内容/白亜紀の木材化石のプレパラートを作って、顕微鏡で観察します。  
担当者/寺田和雄  
葉脈標本をつくろう  
日時/7月14日(日) 13:00～15:00  
内容/葉を薬品処理して、きれいな葉脈のしおりを作ります。  
担当者/矢部 淳  
古生物を復元しよう  
日時/8月4日(日) 13:00～15:00  
内容/骨格の特徴をつかんで、いろいろな絶滅動物を復元します。  
担当者/一島啓人  
恐竜の復元画をかこう  
日時/9月29日(日) 13:00～15:00  
内容/博物館の中から自分の好きな恐竜の骨格化石を選んで、復元画を描きます。  
講師/山本 匠(恐竜画家)

## 野外観察会

対象/一般 40名 申込/往復ハガキ、E-mailにて

金沢市の地層観察  
日時/5月18日(土)  
内容/金沢市周辺に分布する新生代の地層や化石を観察します。  
場所/石川県金沢市周辺  
担当者/一島啓人、矢部 淳、笹木尚美



## 編集後記

最近、来館した方からの恐竜博物館に対する感想や提言がE-mailでよく届きます。そのメールのなかには、「友人や知人にも恐竜博物館を宣伝します。また必ず行きます。」という言葉が多く添えられています。開館してから1年8か月が経ちましたが、まだまだ館のPRが不足しているようです。そのような中、これらの言葉は大変ありがたいものです。今後は、いろいろな機会を利用して情報発信を行い、福井県内外で恐竜博物館ファンを増やしていきたいと思っています。

恐竜博物館ニュースは、今号で第5号になります。更なる内容の充実を図っていきたく考えていますので、皆様からの要望や御意見をお待ちしています。  
(小島敏弘)

## 地学指導者実技講座

場所/実習室  
対象/教師および社会教育関係指導者など20名  
申込/往復ハガキ、E-mailにて

館内実習「博物館の活用法」  
日時/6月7日(金) 13:00～15:00  
内容/博物館学習ガイドブックをもとに、博物館の効果的な活用方法を体験します。  
担当者/小島敏弘  
野外実習「地層の見方、岩石・化石標本採集」  
日時/8月28日(水)  
内容/野外での岩石や化石、地層など教材収集や授業での活用の仕方を学びます。  
担当者/後藤道治、野田芳和、小島敏弘

## コンピュータ教室

場所/実習室 対象/4歳～小3の親子15組  
申込/往復ハガキ、E-mailにて

恐竜シールをつくろう  
日時/4月7日(日) 13:00～15:00  
内容/恐竜の絵を貼ったり文字を組み合わせてシールをつくりまます。  
担当者/千秋利弘  
コンピュータで恐竜をかこう  
日時/7月7日(日) 13:00～15:00  
内容/恐竜の絵をコンピュータでかきます。  
担当者/千秋利弘  
コンピュータで恐竜をかこう  
日時/9月22日(日) 13:00～15:00  
内容/恐竜の絵をコンピュータでかきます。  
担当者/千秋利弘

## 恐竜ふれあい教室

場所/実習室 対象/4歳～小3の親子  
申込/往復ハガキ、E-mailにて

恐竜おりがみ教室  
日時/4月21日(日) 13:00～15:00  
内容/折り紙で、フクイリュウやフクイラブトルなどの恐竜をつくりまます。  
担当者/笹木尚美  
化石のレプリカ教室  
日時/6月16日(日) 13:00～15:00  
内容/本物そっくりの化石のレプリカを石こうを使ってつくりまます。  
担当者/小島敏弘  
化石のペーパーウエイトづくり  
日時/7月27日(土) 10:00～15:00  
内容/化石のはいった岩石を加工して、オリジナルのペーパーウエイトをつくりまます。  
担当者/後藤道治